



まかせてね 今日の食事

今日の一時間目に教室を廻っていると、家庭科室から子供たちの声が聞こえてきました。家庭科室に入ると、そこからいい香りがしてきました。声の主は、6年生の子供たちでした。今日は調理実習をして、「まかせてね今日の食事」という勉強でした。この単元は、5・6年で勉強してきた、体に必要な栄養素の種類と働きや、食品の特徴、材料に合った基本的な調理の技術を生かして、1食分の献立を立てることをねらいとしています。高学年の子供たちにとって、今後成長していく中で自分や家族の食事作りに関わる機会は増えてくると思います。子供たちも調理しながら、味付けのことや彩り、食材の組み合わせ方など、楽しくおいしく食事するためのポイントを班で話し合いながら、献立をよりよいものにしようと張り切っていました。



今回の単元名にもあるように、ご家庭でも是非子供たちに食事を「任せ」て、そこに家族からの「ありがとう」という言葉を添えていただくことで、食事は単に栄養を摂取するだけでなく、人と人とのふれあいを深める大切な役割があることを体感させて欲しいと思います。今回の学習を、日常生活で活用できるようになって欲しいと願いながら家庭科室を後にしました。

家庭科の意義

家庭科は大きく3つの分野で成り立っています。1つ目は家族、家庭などのヒトに関すること。2つ目はモノに関する衣食住の生活で、調理や裁縫が入ります。3つ目は消費・経済生活と環境などの事柄です。家庭生活は、さまざまなことが絡み合って生活が成り立っていて、常に社会は変化しています。だからこそ家庭科への期待と役割は今後益々大きいものになることが予想されます。高等学校になると、資産形成についても教えています。今はCMなどで投資の話が出てきますが、勉強していないと、そこにはどういう背景があり、メリット・デメリットは何か、社会保障とは関係があるかないかなど、自分では殆ど分かりません。しかし、欧米などでは、経済社会と自分たちの経済生活の関係を理解することは、当たり前とされています。



このように、家庭科は、日常生活が全ての活動の土台であることを確認することや、生活を営む力を身に付ける必要があることを改めて学び直すことができる教科だと思います。これは、憲法25条が定める権利である「健康で文化的な生活を実現する」学習の要だとも言えるのです。